

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



「滋賀でよりよいお産環境を」 活動報告＆ランチ交流会

7月19日、ひまわり館で「Birth For the Future@しが活動報告＆ランチ交流会」が開催され、産院やお産のできる環境が激減している昨今、同団体が2023年度に集められたアンケートの回答、そして「滋賀のお産をしゃべり隊」という交流の場で聞き取った生の声を発表しました。報告会の中では、「妊娠期から出産、産後にわたる継続的ケア」や「生活支援サポート」が必要とされていることなどが紹介されていました。先日は県庁に出向き、県の担当者や県会議員にも当事者からのリアルな声を届けて来たそうです。

赤こんりポート

東知樹リポーター



自然が迎えてくれる夏の憩いの場

今年の暑い夏を皆さんどうお過ごしですか。今回は、金田学区の涼めるスポットを2か所ご紹介します。

1つ目は浅小井町の「湧水の郷」です。木陰のおかげでとても涼しく、ベンチもあるのでゆっくりすることができます。池には鯉がたくさんいて、自分が行った時には、ちょうど2羽の鴨が一休みしていました。近くには遊具もあり、ゆっくりした後は遊ぶこともできます。2つ目は金剛寺町の若宮神社側にある、湧水が流れている小川です。近くの小道にはたくさんのトンボが飛んでおり、セミの声も聞こえてくるので、夏の風情を体感できます。この湧水はとても冷たく、飲むこともできるほどきれいです。ぜひこの夏に一度訪れてみませんか。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



今年もスエバあちゃん食堂で「流しそうめん」

スエバあちゃん子ども食堂と民生委員、保護司会、地域のスタッフが毎年行い、子どもや地域の住民が楽しみにしている夏の風物詩「流しそうめん」が、7月13日に末広町の西木戸会館で振る舞われました。

当日は会館前の駐車場に8メートル近い竹筒が準備され、子どもたちは流れるそうめんを箸でつかみ、紙コップに入れて食べていました。小さい子どもはそうめんをつかむことが出来ず、何回も挑戦していました。また子どもたち自身もそうめんを流すなど、スタッフのお手伝いを積極的に行っていました。終了後は和室に移動し、「家では出来ないのが楽しかった」「お腹いっぱい食べた」など感想を言ったり、子どもたちや地域の住民同士が集まっておしゃべりしたりして、おおいに盛り上がっていました。

8月1日



願いを背負って 琵琶湖へ飛び込む

修行僧が琵琶湖上に突き出た長さ約14メートルの棹(角材)の先から、約7メートル下の湖面に飛び込む「伊崎の棹飛び」が、白王町天台宗延暦寺支院の伊崎寺で行われました。

延暦寺の修験道場として知られる同寺の棹飛びは、平安時代の頃に、人々の

願いを叶えるために自らを犠牲にする「捨身の行」として湖に飛び込み、身を清めたことが始まりといわれています。

この日は、上原行照伊崎寺住職が棹の付け根の部分で経を唱えた後、白の浄衣姿12人の修行僧が、1人ずつ棹の先端まで歩き、直立して手を合わせ、湖に飛び込み大きな水しぶきを上げていました。

7月27日



夏だ！祭りだ！はちまんフェスタ

市役所前駐車場とその周辺で、近江八幡青年会議所が主催の「はちまんフェスタ2024」が開催されました。市内18店舗による地域の特産品を使用した飲食ブースや地域の小中学生などが日頃の練習の成果を発表するダンスステージ、フィナーレの花火などが実施され、1万人を超える来場者で賑わいました。

同団体理事長の西山亮平さんは「フェスタを始めた時はこんなに大きな規模で開催できるとしていなかった。関係団体との調整は大変だったが、皆さんの協力のおかげで今年も無事に開催することができ、感慨深いものがあります。来年は市民と一緒に協議会を立ち上げるなど、多くの人が運営に携われるようにしたい」と話していました。

8月10日



自分だけのヨシ灯りづくり

9月21・22日に開催される西の湖ヨシ灯り展に出品する作品を作る「ヨシ灯りづくり」が、桐原学区青少年育成学区民会議の主管で桐原コミュニティエリアの桐原っ子ホールで行われ、16組22人が参加しました。

始めに、西の湖ヨシ灯り展実行委員の木野和也さんから、ヨシの特徴やヨシを守るためのボランティア活動の話聞いた後、参加者は成安造形大学非常勤講師の立神まさ子さんの指導のもと、ヨシ灯りづくりに挑戦。ヨシをホットボンドでくっつけるのに苦戦していましたが、立神さんのアドバイスもあり、徐々にコツをつかみ、思い思いにヨシを積み上げ、楽しそうに作品を作っていました。これらの作品は9月20日まで桐原コミュニティセンターで展示されています。

7月25日



能登半島地震の応急復旧活動 管工事協同組合に感謝状を贈呈

今年1月に発生した能登半島地震で断水した石川県能登町の応急復旧のため、3月4日から12日までの9日間、技術員4人を派遣し多大な貢献をされた近江八幡管工事協同組合に、市から感謝状が贈呈されました。

この日は、田中良昭^{よしあき}理事長と三好イサム副理事長の2人が市長応接室を訪れ、小西市長から感謝状が手渡されました。三好副理事長は「漏水箇所を探しながらの作業でとても難航したが、一部でも復旧することができて良かった」と現場の声を伝え、田中理事長は「被災者の人たちが、1日でも早く平凡な暮らしをしてほしい。自分たちの活動が少しでも貢献できていれば光栄に思います」と話しました。

8月6日



「子どもたちの健やかな成長のために」 収益金から児童書などを寄贈

国際ソロプチミスト近江八幡が、認証35周年記念事業として開催したチャリティーイベントの収益金145万円で、市立図書館の児童書や女性向け一般書約380冊、子ども発達支援センターの子ども用テーブル5台、子育て支援センターのおもちゃや絵本を市に寄贈しました。

この日、同団体の役員6人は市長応接室を訪れ、小西市長に目録を手渡すと、重野満子会長は「子どもたちの明るい未来に寄り添いたい。有効に活用していただけたら」と話し、小西市長は「寄贈いただき心から感謝します」と感謝の意を表しました。